

MOBILE SUIT VARIATION **MSV**



Mobile Suit Variations Model Series

1/144 Prototype Dom



<https://gunplastory.com/>

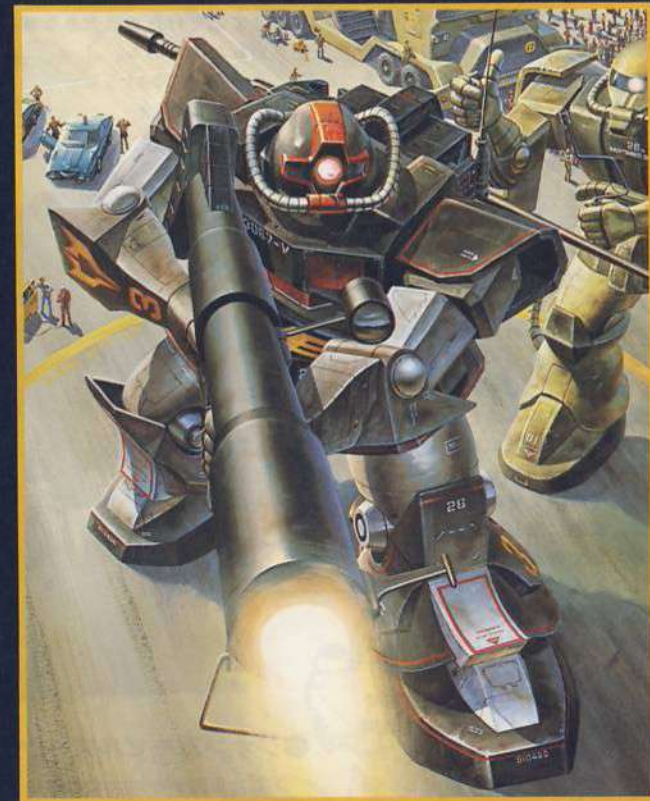


MOBILE SUIT VARIATION

機動戦士

YMS-09 **ガンダム**
PROTOTYPE DOM

YMS-09プロトタイプドム/解説書



1/144 SCALE モビルスーツバリエーション

BANDAI

© 創通・サンライズ

塗装 & マーキング

■掲載してある完成品は、基本の塗装をしたものに更に、よりリアルな感じを出すため 汚し塗装をしたものです。

●①②などの数字はデカールの番号です。(指示のないマークは手書きしたものです。キットには入っておりません。)

■基本色は、つや消し黒、ジャーマングレーに黒をごく少量混ぜたもの、黒鉄色、の3色から成っています。作例はその3色を本体に塗装したあと、つや消し黒をうすめ液でうすめたものをエアブラシで吹きつけ汚し塗装したものです。

★この他、自由に塗装してあなただけのプロトタイプドムをつくってみよう。

完成写真[作例]



★この塗装図は印刷物のため、指示の色と多少異なる場合があります。

▼トロピカル テストタイプ

改造作品例

■この作例はトロピカルテストタイプに改造したものです。キットには改造のための部品は入っておりません。

★基本色はサンディブラウンにフラットベースを混ぜたものです。全体を塗装しデカールを貼ってからフィールドグレーにフラットベースを混ぜたものをうすめ液でうすめエアブラシで吹きつけ汚し塗装を施こしてあります。



YMS-09 PROTOTYPE DOM

モビルスーツバリエーション
YMS-09 プロトタイプドム

MOBILE SUIT VARIATION

●YMS-09 プロトタイプドム

モビルスーツによって連邦に対し優位に立ったジオン公国ではあったが、成功作MS-06に過大な多用性を見出そうとしたため、地上戦において設計を新たに作るモビルスーツの必要性は足早にやってきた。

かねてよりMS-06に高性能を追求するためMS-07が誕生するまでになっていたが、陸上での移動力に難点が集中し、飛行可能なMS-07や、ドグライズ等の対策が成された事は有名である。

ここにおいてジオン軍が検討したのが陸戦用に最も要求された機動性を満たすホバージェット推進機を持つモビルスーツであった。白兵戦用に軽量高機動のRX-78を参考にザクを改良したのがYMS-08Aであったが、すでに却下となり欠番となっていたため、YMS-09の名称で試作が進行した。

開発は全て新設計による物で、開戦から6ヵ月以上を数えてロールアウトした。武装は重火器の使用が可能となり、専用兵器として360ミリロケット砲と、MS-07C-5にも装備されたヒートサーベルが与えられている。試作はジオン本国で行なわれたが、実際に完成した1号機、2号機は、直ちに地球へ降ろされて各種テストに使用された。最新鋭機として大きく期待された同機のテストには宣伝用フィルムのために数多くの将軍達が召喚されている。実用試験には1号機にフレデリック・クランベリー大佐が搭乗して花を添えている。確認されている記録では、2号機共に部隊マーク風に描かれているのは、式典に際してザビ家の命令によって施されたマーキングであったと言われている。

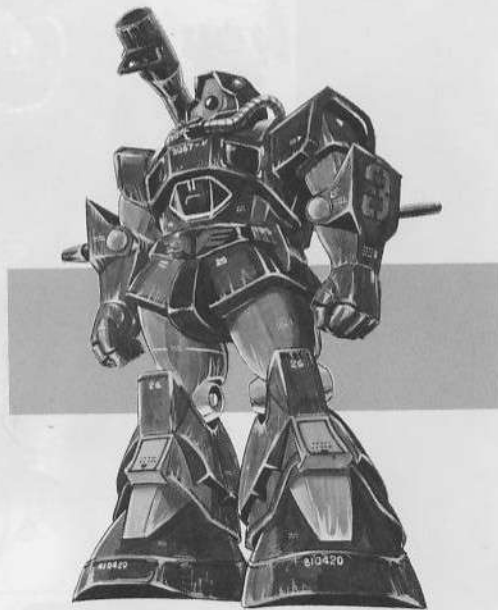
続く量産型との差異はほとんどなく、外装上の整理が行なわれたにすぎない。記録によると、YMS-09は2機にとどまり、数週間後に正式にMS-09として生産がすすめられた。

試作機はその後キャルフォルニアベースに引き渡されたままであったが、2号機はしばらくして熱帯戦用MS-09の研究母体として若干の改造を施された。アフリカ戦線におけるMS-09の活躍は実に目覚ましい物であったが、やはり局地戦での使用に問題がなかったというわけではなく、現地からは改善要求の提出が少なからずあったと言われている。

特に近距離用の通信アンテナと、頭部の放熱パイプ、背部推進機の形式は差し戻してYMS-09方式が採用されたということになる。地球上でのドム自体の配備にも時間がかかったため、この熱帯戦用タイプの改修は正式承認以前の物としてキャルフォルニアベースが

工作を代行しただけの物であった。この仕様のオプションパーツは、一部へ向けて生産が行なわれたが、実際に使用した例は10機に満たなかったと伝えられている。

MS-09ドムは地上戦におけるモビルスーツの行動力を大きく変革した。局地戦用の要素が濃いにもかかわらず、地上の一般型モビルスーツとしてザクの存在を大きく退げた事は大きな事実であり、一応の頂点を見出したのである。



●ジオン軍モビルスーツ発達史

ジオン公国が今時大戦において、連邦軍に立ちならぶことの出来たのは、大戦初頭におけるモビルスーツ機動部隊の活躍によるものである。モビルスーツは、ミノフスキー粒子干渉下での有視界戦に焦点を絞った兵器であり、ジオン国防省の要請で、数々の設計を繰り返した末の成果である。当初、軍の要求した内容を満たすためには、あらゆる戦略行動下にも適合し得る移動力、装甲、兵器搭載量を同時にかなえなければならなかった。また侵攻作戦や作業性の問題から、構想

確立後5年にして二足歩行型すなわち人間兵器として具現化する事となる。これが後のモビルスーツ・ザクの基本となるMS-01である。国防省は新型兵器としてMSの型式番号を与えると同時に対外向けには、作業用宇宙機として発表した。

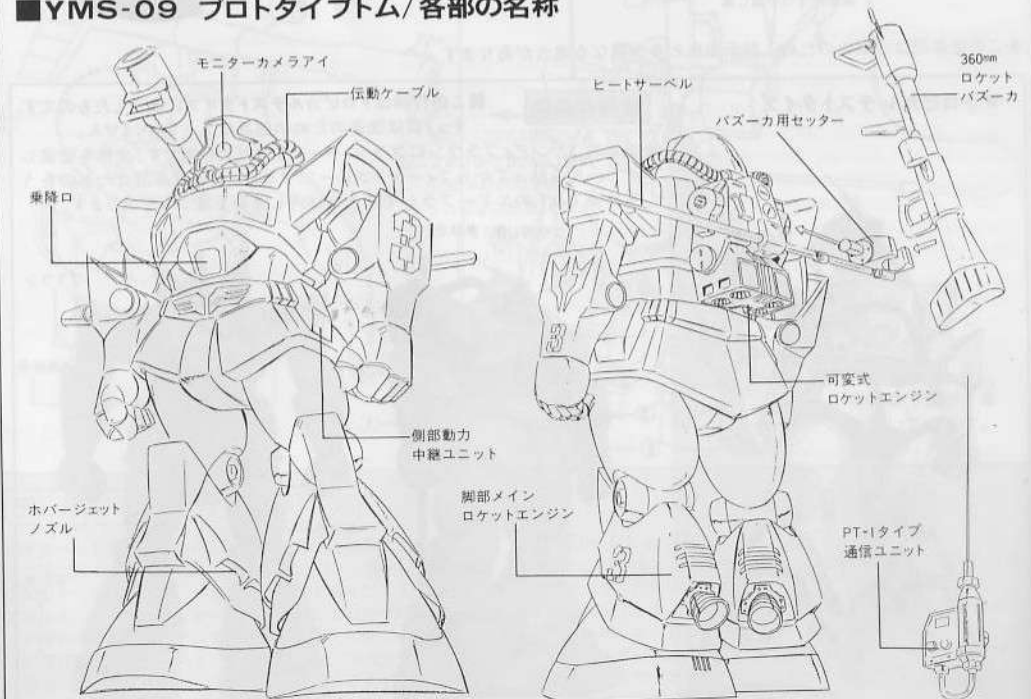
とりあえず基本形のみ状態から、ジオンは徐々に兵器として性能を満たすべく改良研究を重ねていった。機動性の向上と重装甲は機体とパイロットを保護する上で切実な問題だったわけである。実戦用モビルスーツと呼べる物はMS-04からであろう。期待を一身に背負ったMS-04はその後さらに無駄の排除を続け、全く人間型の外部デザインのMS-05通称モビルスーツ・ザク、で完成を見る。

ジオンは地上部隊の増強のため陸上兵器としてのモ

ビルスーツ改良へと進んでいった。開戦直後からの数々の展開を考慮したジオン軍は、地上戦用モビルスーツを次々と開発した。MS-06を基本にそれ自体のバリエーションも様々な展開を見せるが、白兵戦での戦闘力をより強化したMS-07、MS-08を開発するに至る。どちらもMS-06をベースにした物であったが、コストとスペックの見合わないMS-08は却下された。地上戦で重量配分と装甲の問題をいかにとも出来なくなる事を予測したジオン軍は、陸上戦用重モビルスーツMS-09ドムを開発する。熱核ジェットエンジンを装備したMS-09はホバリング走行によって地上戦でのモビルスーツ移動力の問題を克服したと言える。

■解説/ストリームベース・小田雅弘

■YMS-09 プロトタイプドム/各部の名称



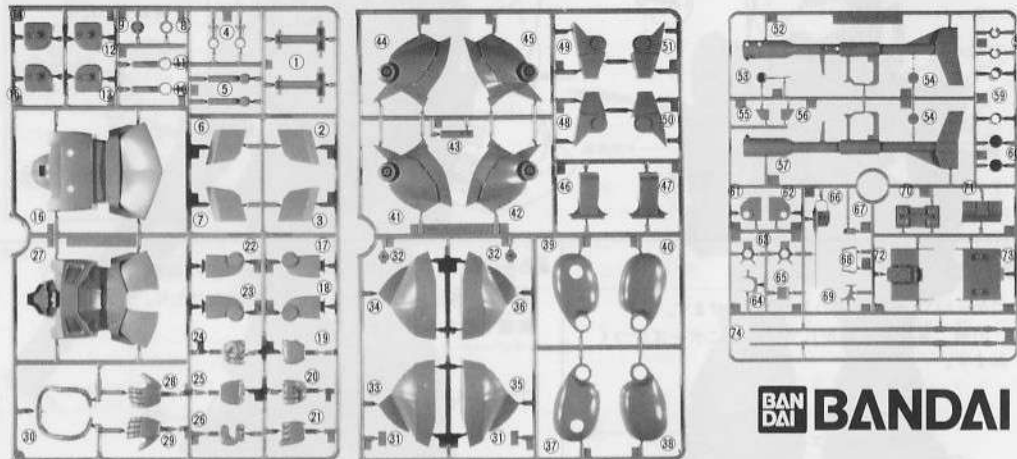
MSV No.3 YMS-09 PROTOTYPE DOM

■MSバリエーションNo.3 プロトタイプドム /組立説明図

■PART LIST

■デカール……1

[使用材質]＜成形品＞(スチロール樹脂:PS)



《お買い上げのお客様へ》

部品をこわしたり、なくした時は「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書（裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。）にて下記までお申し込みください。代金は、部品代（1個40円×個数）＋郵送料（120円）です。為替証書は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じることがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご記入頂きました個人情報につきましては、商品・部品の発送及び情報の提供以外には使用いたしません。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター
〒420-8681 静岡県静岡市葵区長沼500-12 TEL054-208-7520

For Japanese use only.

部品注文カード

機動戦士ガンダム MSV
1/144 プロトタイプドム

必要な部品の記号・番号・数量を書く

●注文された理由(○で囲む)(こわした・なくした)

日中ご連絡可能な電話番号()

《組み立てる時の注意》

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 実線の矢印(→)は接着するところ、点線の矢印(---)は接着しないところ、点線の矢印(---)は接着するところ、点線の矢印(---)は接着しないところ、点線の矢印(---)は接着するところ、点線の矢印(---)は接着しないところ。

注意

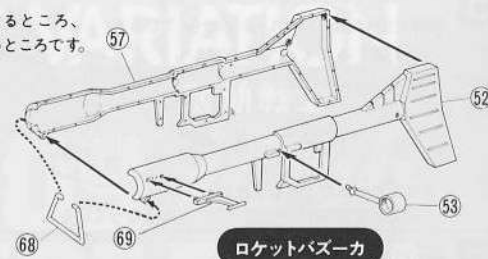
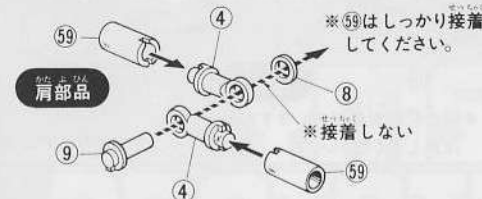
必ずお読みください

- とがった部品がありますので、8才未満のお子さまには絶対に与えないでください。
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 接着剤は、閉めきった室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。

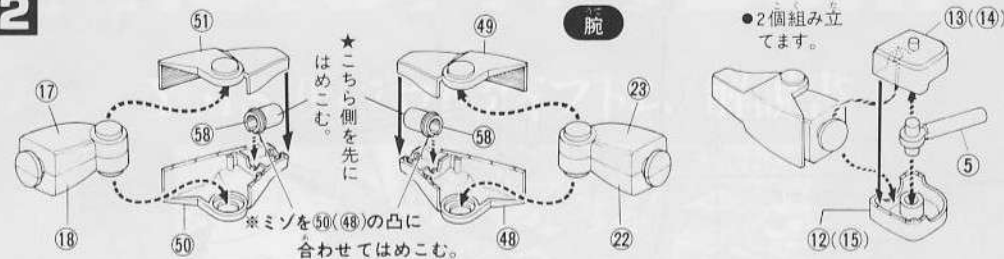
このキットには、接着剤は入っておりません。プラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。

1

- ※④の向きに注意し、図中実線の矢印(→)は接着するところ、点線の矢印(---)は接着しないところ、点線の矢印(---)は接着するところ、点線の矢印(---)は接着しないところ。

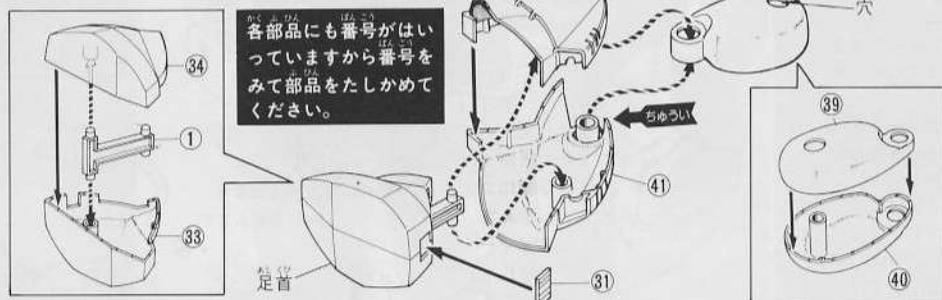


2



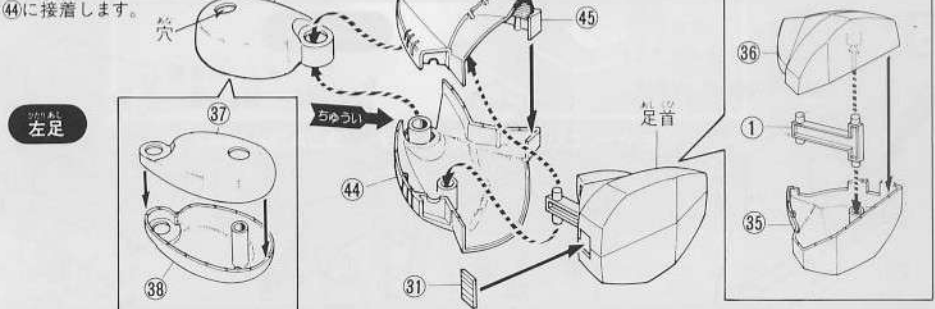
3

- 先に足首と、ももを組み立てます。
- 足首と、ももをはさんで④②を④①に接着します。



4

- 先に足首と、ももを組み立てます。
- 足首とももをはさんで④⑤を④④に接着します。



5 ●図のように腰部部品を組み立てます。
※⑩と⑪は形が似ていますから「できあがり図」をよくみてください。

※切りとったところをきれいにしてください。
※丸くなっている。

※④⑥と④⑦は形が似ていますから注意してください。

★できあがり図

6 ●先に肩部品を⑬にしっかり接着します。

●両足に③②⑥⑦を接着します。

※ここに接着剤をつけます。

※肩部品のはめこみかた

7

●腰部部品に両足を奥まではめこみます。
●腰部部品を本体にしっかり接着します。
●⑥⑦を本体に接着してから③②を⑥⑦、本体に接着します。(③②を少し開いて⑥⑦に接着します。)

※丸くなっている方が前です。

カメラアイは塗装するかデカールをはってください。

※しっかり接着します。

カメラアイ(デカール)

8 ●各部品を図のように接着してロケットエンジンを組み立てます。
※⑦⑧は上下の向きに注意!!

※ここに接着剤を少量つける。

※ここに接着剤を少量つける。

ロケットエンジン

9 ●先に腕をはさんで②を③に⑦を⑥に接着します。
●各部品を本体に取り付けます。
※腕と⑥④は接着しないでください。
★腕に左右の区別はありません。

●2個組み立てます。

★にぎった手

《完成》

●ロケットバズーカを図のように持たせます。
★この他、各関節を動かして、自由にポーズがつけられます。

ロケットバズーカ

ロケットバズーカ

※⑦⑧は予備が1本ついています。

デカールの貼り方

①デカールを貼る場所の、ほこりや汚れ、油気を、ぬらした布で良くふきとってください。
②貼りたいデカールを、ハサミかナイフで切りとります。
③貼る場所を確かめてから、ぬるま湯に5秒程つけて引き上げタオルなどに置きます。あまりながくつけていると、のりが溶けてデカールが付きにくくなりますので注意してください。特に小さい文字などはぬるま湯につけたらすぐ引き上げるくらいにしてください。(ピンセットを利用するとよいでしょう)
④マークを台紙からずらしながら貼ってください。(ピンセットを利用するとよいでしょう)
⑤指先に少しぬるま湯をつけデカールをぬらしながら正しい位置に貼ってください。
⑥やわらかく、よく水気を吸う布でデカールをそっと押え内側の気泡を押し出しながら水分をとります。デカールを貼る場所が凸凹していたり曲面になっているところは蒸しタオルでデカールを押えてください。しわになった時はナイフの先で切れ目を入れてから押えます。
⑦貼ったあとはデカールが乾くまでさわらないようにします。